

氏名	中 田 哲 也
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 号
学位授与の日付	平成16年3月25日
学位授与の要件	医学研究科外科系泌尿器科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	<i>NY-ESO-1</i> mRNA expression and immunogenicity in advanced prostate cancer (進行性前立腺癌における <i>NY-ESO-1</i> mRNAの発現と免疫原性)
論文審査委員	教授 平松 祐司 教授 清水 憲二 教授 許 南浩

学位論文内容の要旨

癌と精巣にのみ発現する cancer/testis (CT)抗原は、癌免疫療法の標的分子として期待されている。CT 抗原である NY-ESO-1 を標的分子として前立腺癌に対する癌免疫療法を確立するための基礎研究として本研究を行った。NY-ESO-1 mRNA の発現は RT-PCR 法及び定量的リアルタイム PCR 法で解析した。進行性前立腺癌 53 例のうち 20 例(38%)と高率に mRNA の発現を認めた。また、液性免疫反応は ELISA 法で測定し、血清中の抗体産生を 218 例中 10 例(4.6%)に認めた。抗体陽性例はすべて転移を有する病期 D であった。NY-ESO-1 特異的細胞性免疫応答は ELISPOT 法で検討した。血清抗体陽性であった 3 症例中 2 例で、NY-ESO-1 特異的 CD8 陽性 T 細胞反応の誘導を確認できた。以上より、進行性前立腺癌では NY-ESO-1 mRNA の発現が高率に認められ、一部の患者では NY-ESO-1 に対する液性および細胞性免疫応答が生じていた。NY-ESO-1 抗原が前立腺癌に対する癌免疫療法の標的分子として有望であることを示唆している。

論文審査結果の要旨

本研究は、進行前立腺癌における、癌と精巣のみに発現する cancer/testis (CT)抗原の 1 つである NY-ESO-1 の発現、および免疫原性について検討したものである。著者は進行前立腺癌において NY-ESO-1 mRNA が高頻度に発現 20/53 (38%) していることを報告し、また ELISA 法を開発し、NY-ESO-1 抗体発現も検討している。

さらに、NY-ESO-1 に対する特異的細胞性免疫応答の検出を IFN γ ELISPOT 法で観察し、NY-ESO-1 抗体陽性患者 2 名において NY-ESO-1 特異性 CD8 陽性 T 細胞反応を認めている。

本研究は、NY-ESO-1 抗原が、進行前立腺癌に対する癌免疫療法の標的分子として有望であることを示唆しており、NY-ESO-1 抗原について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。